システムメッセージロギングの設定

この章は、次の内容で構成されています。

システム メッセージ ロギングの概要

システム メッセージ ロギングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログ ファイル、およびリモート システム上の Syslog サーバへのロギングを設定できます。

システム メッセージ ロギングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『*Cisco NX-OS System Messages Reference*』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus デバイスはメッセージをターミナル セッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステム メッセージをログ ファイルに記録します。

次の表に、システム メッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

Table 1: **システム メッセージの重大度**

レベル	説明
0：緊急	システムが使用不可
1：アラート	即時処理が必要

レベル	説明
2：クリティカル	クリティカル状態
3：エラー	エラー状態
4：警告	警告状態
5：通知	正常だが注意を要する状態
6：情報	単なる情報メッセージ
7：デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで不揮発性 RAM（NVRAM）ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステム メッセージを設定できます。

Syslogサーバ

syslog サーバーは、syslog プロトコルに基づいてシステム メッセージを記録するよう設定されたリモート システムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバーにログを送信するように Cisco Nexus シリーズ スイッチを構成できます。CFS が有効の場合は、最大 3 台の syslog サーバーを構成できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバーの同じ構成をサポートするために、Cisco Fabric Services（CFS）を使用して syslog サーバー構成を配布できます。

Note スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが Syslog サーバーに送信されます。

システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システム メッセージ ロギングには次の設定上の注意事項と制約事項があります。

- システム メッセージは、デフォルトでコンソールおよびログ ファイルに記録されます。
- Cisco NX-OS リリース 10.3(4a)M 以降では、syslog プロトコル RFC 5424 を有効にする既存の **logging rfc-strict 5424** コマンド（オプション）が、次のように新しいキーワード（**full**）を追加することで拡張されています。

  logging rfc-strict 5424 full

このキーワードを追加すると、Syslog プロトコルの RFC 5424 標準に完全に準拠します。ただし、[APP-NAME] [PROCID] [MSG-ID] [STRUCTRED-DATA] フィールドに値が使用できない場合、nil 値はダッシュ（-）で示されます。

システム メッセージ ロギングのデフォルト設定

次の表に、システム メッセージ ロギング パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: **デフォルトのシステム メッセージ ロギング パラメータ**

パラメータ	デフォルト
コンソール ロギング	重大度 2 でイネーブル
モニタ ロギング	重大度 2 でイネーブル
ログ ファイル ロギング	重大度 5 のメッセージ ロギングがイネーブル
モジュール ロギング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティ ロギング	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバ ロギング	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	無効化

システム メッセージ ロギングの設定

ターミナル セッションへのシステム メッセージ ロギングの設定

コンソール、Telnet、およびセキュア シェル セッションに対するシビラティ（重大度）によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナル セッションでロギングはイネーブルです。

SUMMARY STEPS

1. switch# **terminal monitor**
2. switch# **configure terminal**
3. switch(config)# **logging console** [*severity-level*]
4. (Optional) switch(config)# **no logging console** [*severity-level*]
5. switch(config)# **logging monitor** [*severity-level*]

6. (Optional) switch(config)# **no logging monitor** [*severity-level*]
7. (Optional) switch# **show logging console**
8. (Optional) switch# **show logging monitor**
9. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **terminal monitor**	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# **logging console** [*severity-level*]	指定されたシビラティ（重大度）（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうがシビラティ（重大度）が高いことを示します）。重大度は 0 ～ 7 の範囲です。 • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ 重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。
ステップ 4	(Optional) switch(config)# **no logging console** [*severity-level*]	コンソールへのロギング メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	switch(config)# **logging monitor** [*severity-level*]	指定されたシビラティ（重大度）（またはそれ以上）に基づくモニターへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうがシビラティ（重大度）が高いことを示します）。重大度は 0 ～ 7 の範囲です。

	Command or Action	Purpose
		• 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ 重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。 設定は Telnet および SSH セッションに適用されます。
ステップ 6	(Optional) switch(config)# **no logging monitor** [*severity-level*]	Telnet および SSH セッションへのメッセージ ロギングをディセーブルにします。
ステップ 7	(Optional) switch# **show logging console**	コンソール ロギング設定を表示します。
ステップ 8	(Optional) switch# **show logging monitor**	モニタ ロギング設定を表示します。
ステップ 9	(Optional) switch# **copy running-config startup-config**	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、コンソールのロギング レベルを 3 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナル セッションのロギング レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナル セッションのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                 enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナル セッションのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

ファイルへのシステム メッセージ ロギングの設定

システム メッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システム メッセージはファイル log:messages に記録されます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging logfile** *logfile-name severity-level* [**size** *bytes*]
3. (Optional) switch(config)# **no logging logfile** [*logfile-name severity-level* [**size** *bytes*]]
4. (Optional) switch# **show logging info**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **logging logfile** *logfile-name severity-level* [**size** *bytes*]	システム メッセージを保存するのに使用するログ ファイルの名前と、記録する最小シビラティ（重大度）を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイル サイズは 4194304 です。 重大度は 0 ～ 7 の範囲です。 • 0：緊急 • 1：アラート

	Command or Action	Purpose
		• 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ ファイル サイズは 4096 ～ 10485760 バイトです。
ステップ 3	(Optional) switch(config)# **no logging logfile** [*logfile-name severity-level* [**size** *bytes*]]	ログ ファイルへのロギングをディセーブルにします。任意で最大ファイル サイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイル サイズは 4194304 です。
ステップ 4	(Optional) switch# **show logging info**	ロギング設定を表示します。任意で最大ファイル サイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイル サイズは 4194304 です。
ステップ 5	(Optional) switch# **copy running-config startup-config**	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、システム メッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ロギング設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:                enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:                enabled (Severity: debugging)
Logging timestamp:              Seconds
Logging server:                 disabled
Logging logfile:                enabled
        Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility        Default Severity        Current Session Severity
--------        ----------------        ------------------------
aaa                     3                       3
afm                     3                       3
altos                   3                       3
auth                    0                       0
authpriv                3                       3
bootvar                 5                       5
```

```
callhome                2                       2
capability              2                       2
cdp                     2                       2
cert_enroll             2                       2
...
```

モジュールおよびファシリティ メッセージのロギングの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging module** [*severity-level*]
3. switch(config)# **logging level** *facility severity-level*
4. (Optional) switch(config)# **no logging module** [*severity-level*]
5. (Optional) switch(config)# **no logging level** [*facility severity-level*]
6. (Optional) switch# **show logging module**
7. (Optional) switch# **show logging level** [*facility*]
8. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **logging module** [*severity-level*]	指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ～ 7 の範囲です。 • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ

	Command or Action	Purpose
		重大度が指定されていない場合、デフォルトの 5 が使用されます。
ステップ 3	switch(config)# **logging level** *facility severity-level*	指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのロギング メッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ～ 7 です。 • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、allファシリティを使用します。デフォルト値については、**show logging level** コマンドを参照してください。 **Note** コンポーネントの現行セッションのシビラティ（重大度）がデフォルトのシビラティ（重大度）と同じ場合には、実行構成でそのコンポーネントのログ レベルが表示されないことが予想されます。
ステップ 4	(Optional) switch(config)# **no logging module** [*severity-level*]	モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	(Optional) switch(config)# **no logging level** [*facility severity-level*]	指定されたファシリティのロギングシビラティ（重大度）をデフォルト レベルにリセットします。ファシリティおよびシビラティ（重大度）を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルト レベルにリセットします。
ステップ 6	(Optional) switch# **show logging module**	モジュール ロギング設定を表示します。
ステップ 7	(Optional) switch# **show logging level** [*facility*]	ファシリティごとに、ロギング レベル設定およびシステムのデフォルト レベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 8	(Optional) switch# **copy running-config startup-config**	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、モジュールおよび特定のファシリティ メッセージのシビラティ（重大度）を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

ロギング タイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズ スイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging timestamp** {**microseconds** | **milliseconds** | **seconds**}
3. (Optional) switch(config)# **no logging timestamp** {**microseconds** | **milliseconds** | **seconds**}
4. (Optional) switch# **show logging timestamp**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **logging timestamp** {**microseconds** | **milliseconds** | **seconds**}	ロギング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	(Optional) switch(config)# **no logging timestamp** {**microseconds** | **milliseconds** | **seconds**}	ロギング タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	(Optional) switch# **show logging timestamp**	設定されたロギング タイムスタンプ単位を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) switch# **copy running-config startup-config**	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp:              Milliseconds
```

syslog サーバの設定

システム メッセージを記録する、リモート システムを参照する syslog サーバーを最大で 8 台設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **logging server** *host* [*severity-level* [**use-vrf** *vrf-name* [**facility** *facility*]]]
3. (Optional) **no logging server** *host*
4. (Optional) **show logging server**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose

ステップ 1	**configure terminal**
	Example:
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 2	**logging server** *host* [*severity-level* [**use-vrf** *vrf-name* [**facility** *facility*]]] **Example:** `switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3`	ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。 • *host* 引数は、syslog サーバー ホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。 • *severity-level* 引数は、指定したレベルに syslog サーバーへのメッセージのロギングを制限します。シビラティ（重大度）は 0 ～ 7 の範囲で

	Command or Action	Purpose
		す。Table 1: システム メッセージの重大度 , on page 1を参照してください。 • use vrf *vrf-name* キーワードは、VRF 名のデフォルトまたは管理値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、management がデフォルトです。 **show running** コマンドの出力には、次の構成シナリオに基づいて VRF が表示される場合と表示されない場合があります： • VRF が構成されていない場合、システムは管理 VRF をデフォルトとして使用します。この VRF は出力に表示されません。 • 管理 VRF が構成済みである。その後、この VRF は、システムがデフォルトとして識別するため、 の出力には表示されません。 • その他の VRF が構成されています。それから、この VRF が出力に表示されます。 **Note** 現在の Cisco Fabric Services（CFS）配信では VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で構成されているロギング サーバーは管理 VRF として配布されます。 • facility 引数は syslog ファシリティ タイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。 ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアのコマンド リファレンスに記載されています。 **Note** デバッグは CLI ファシリティですが、デバッグの syslog はサーバーに送信されません。
ステップ 3	(Optional) **no logging server** *host* **Example:** `switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5`	指定されたホストのロギング サーバーを削除します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	(Optional) **show logging server** **Example:** `switch# show logging server`	Syslog サーバー構成を表示します。
ステップ 5	(Optional) **copy running-config startup-config** **Example:** `switch(config)# copy running-config startup-config`	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、syslog サーバーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3

switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に syslog サーバーを設定できます。

facility.level <five tab characters> *action*

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

Table 3: syslog.conf の syslog フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ～ local7 です。アスタリスク（*）を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 **Note** ローカル ファシリティを使用する前に設定をチェックします。
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク（*）を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。

フィールド	説明
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク（@）が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザー リストです。アスタリスク（*）を使用するとすべてのログイン ユーザーを指定します。

SUMMARY STEPS

1. /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグ メッセージを記録します。
2. シェル プロンプトで次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。
3. 次のコマンドを入力して、システム メッセージ ロギング デーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

DETAILED STEPS

Procedure

ステップ 1 /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグ メッセージを記録します。

```
debug.local7            /var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェル プロンプトで次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、システム メッセージ ロギング デーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

syslog サーバー設定の配布の設定

Cisco Fabric Services（CFS）インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバー設定を配布できます。

Syslog サーバー設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバー設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバー設定に対する保留中の変更を維持します。

Note スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されているsyslogサーバー設定の変更は失われることがあります。

Before you begin

1 つまたは複数の syslog サーバーを設定しておく必要があります。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging distribute**
3. switch(config)# **logging commit**
4. switch(config)# **logging abort**
5. (Optional) switch(config)# **no logging distribute**
6. (Optional) switch# **show logging pending**
7. (Optional) switch# **show logging pending-diff**
8. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **logging distribute**	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバー設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# **logging commit**	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバー設定に対する保留中の変更をコミットします。
ステップ 4	switch(config)# **logging abort**	Syslog サーバー設定に対する保留中の変更をキャンセルします。
ステップ 5	(Optional) switch(config)# **no logging distribute**	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバー設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。**logging commit** および **logging abort** コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	(Optional) switch# **show logging pending**	Syslog サーバー設定に対する保留中の変更を表示します。
ステップ 7	(Optional) switch# **show logging pending-diff**	syslog サーバー設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバー設定との違いを表示します。
ステップ 8	(Optional) switch# **copy running-config startup-config**	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

ログ ファイルの表示およびクリア

ログ ファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したり消去したりできます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **show logging last** *number-lines*
2. switch# **show logging logfile** [**start-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*] [**end-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*]
3. switch# **show logging nvram** [**last** *number-lines*]
4. switch# **clear logging logfile**
5. switch# **clear logging nvram**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# **show logging last** *number-lines*	ロギング ファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ～ 9999 を指定できます。
ステップ 2	switch# **show logging logfile** [**start-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*] [**end-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*]	入力されたスパン内にタイム スタンプがあるログ ファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。月の時間フィールドには 3 文字を、年と日の時間フィールドには数値を入力します。
ステップ 3	switch# **show logging nvram** [**last** *number-lines*]	NVRAM のメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には 1 ～ 100 を指定できます。
ステップ 4	switch# **clear logging logfile**	ログ ファイルの内容をクリアします。
ステップ 5	switch# **clear logging nvram**	NVRAM の記録されたメッセージをクリアします。

Example

次に、ログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログ ファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

DOM ロギングの構成

DOM ロギングの有効化

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **system ethernet dom polling**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **system ethernet dom polling**	トランシーバのデジタル オプティカル モニタリングの定期的なポーリングを有効にします。

例

次に、DOM ロギングを有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system ethernet dom polling
```

DOM ロギングの無効化

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **no system ethernet dom polling**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# **configure terminal**	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# **no system ethernet dom polling**	トランシーバのデジタル オプティカル モニタリングの定期的なポーリングを無効にします。

例

次の例は、DOM ロギングを無効にする方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system ethernet dom polling
```

DOM ロギング構成の確認

コマンド	目的
show system ethernet dom polling status	トランシーバのデジタル オプティカル モニタリングの定期的なポーリング ステータスを表示します。

システム メッセージ ロギングの設定確認

システム メッセージのロギング設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。
show logging info	ロギング設定を表示します。
show logging ip access-list cache	IP アクセス リスト キャッシュを表示します。

コマンド	目的
show logging ip access-list cache detail	IP アクセス リスト キャッシュに関する詳細情報を表示します。
show logging ip access-list status	IP アクセス リスト キャッシュのステータスを表示します。
show logging last *number-lines*	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。
show logging level [*facility*]	ファシリティ ロギングシビラティ（重大度）設定を表示します。
show logging logfile [**start-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*] [**end-time** *yyyy mmm dd hh:mm:ss*]	ログ ファイルのメッセージを表示します。
show logging module	モジュール ロギング設定を表示します。
show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
show logging nvram [**last** *number-lines*]	NVRAM ログのメッセージを表示します。
show logging pending	Syslog サーバーの保留中の配布設定を表示します。
show logging pending-diff	Syslog サーバーの保留中の配布設定の違いを表示します。
show logging server	Syslog サーバー設定を表示します。
show logging session	ロギング セッションのステータスを表示します。
show logging status	ロギング ステータスを表示します。
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプ単位設定を表示します。

繰り返されるシステム ロギング メッセージ

システム プロセスはロギング メッセージを生成します。生成される重大度レベルを制御するために使用されるフィルタによっては、多数のメッセージが生成され、その多くが繰り返されます。

ロギング メッセージの量を管理するスクリプトの開発を容易にし、**show logging log** コマンドの出力の「フラッディング」から繰り返されるメッセージを排除するために、繰り返されるメッセージをロギングする次の方法が使用されます。

以前の方法では、同じメッセージが繰り返された場合、デフォルトでは、メッセージ内でメッセージが再発生した回数が示されていました。

```
2019 Mar 11 13:42:44 Cisco-customer %PTP-2-PTP_INCORRECT_PACKET_ON_SLAVE:
Incorrect delay response packet received on slave interface Eth1/48 by
2c:5a:0f:ff:fe:51:e9:9f. Source Port Identity is 08:00:11:ff:fe:22:3e:4e. Requesting
Port
Identity is 00:1c:73:ff:ff:ee:f6:e5
2019 Mar 11 13:43:15 Cisco-customer last message repeated 242 times
```

新しいメソッドは、繰り返しメッセージの最後に繰り返し回数を追加するだけです。

```
2019 Mar 11 13:42:44 Cisco-customer %PTP-2-PTP_INCORRECT_PACKET_ON_SLAVE:
Incorrect delay response packet received on slave interface Eth1/48 by
2c:5a:0f:ff:fe:51:e9:9f. Source Port Identity is 08:00:11:ff:fe:22:3e:4e. Requesting
Port
Identity is 00:1c:73:ff:ff:ee:f6:e5

2019 Mar 11 13:43:15 Cisco-customer %PTP-2-PTP_INCORRECT_PACKET_ON_SLAVE:
Incorrect delay response packet received on slave interface Eth1/48 by
2c:5a:0f:ff:fe:51:e9:9f. Source Port Identity is 08:00:11:ff:fe:22:3e:4e. Requesting
Port
Identity is 00:1c:73:ff:ff:ee:f6:e5 (message repeated 242 times)
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。